

自然環境保全論（環境倫理を含む）
 (Conservation of Natural Environment, and Environmental Ethics)

	1 年次	後期	火曜・4 コマ	2 単位
担 当 者	藤原 宣夫, 平井 規央			
授 業 目 標	<p>緑地環境科学を専攻する学生への入門的な動機づけ講義として、世界各地の自然の状況や社会的関心を引き起こしている自然環境問題に触れながら、広義の生態学、緑地学、社会学、環境倫理的な観点から自然環境保全の考え方や手法、技術について講述し、自然環境保全・生物多様性保全に関する基礎的な理解を図る。具体的な達成目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物多様性危機の実態と要因を事例とともに解説できるようになる。 2. 地球環境問題に貢献できる行動をとることができるようになる。 3. 保全生物学や保全生態学の役割を理解し、自然保護上の問題を社会から見つけだすことができるようになる。 4. 環境倫理に反しない行動をとることができるようになる。 5. 環境教育を実践できるようになる。 			
授 業 概 要	<p>世界および日本の自然・生物多様性の現状、生物多様性とは何か、さまざまな生態系とその成り立ち、保全生物学の考え方、世界および日本における生物多様性保全への取り組み、自然環境保全・生物多様性保全に関わる組織と制度、環境教育、環境倫理などについて講述する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明・生物多様性とは何か（3つのレベル） 2. レッドデータブックからみた野生生物の現状 3. 生物多様性と私たちの暮らし 4. 生物多様性の危機要因①（外来生物問題など） 5. 生物多様性の危機要因②（地球環境問題） 6. 生態系の成り立ち 7. さまざまな生態系と現状① 8. さまざまな生態系と現状② 9. 保全生物学とその考え方 10. 自然保護・生物多様性保全への取り組み（世界と日本の流れ） 11. 生態系ネットワーク 12. 日本の自然保護の現状と課題（里地里山問題など） 13. 地球温暖化防止への取り組み 14. 環境倫理と環境教育 15. 生物多様と保全（授業の総括としての振り返り） 			
教 科 書	五訂 地球環境キーワード事典、環境省地球環境部編、中央法規出版 2008 年			
参 考 書	<p>生物多様性キーワード事典、生物多様性政策研究会編、中央法規出版 2002 年</p> <p>保全生物学のすすめ 改訂版、リチャード B プリマック・小堀洋美、文一総合出版、2008 年</p> <p>ランドスケープエコロジー、日本造園学会編、技報堂出版、1994 年</p>			
試験・成績評価	<p>原則として 10 回以上出席した者を対象として、平常点 50 点＋期末試験 50 点、合計 100 点で成績評価を行う。平常点は各授業で行うミニテストの解答内容から授業への取り組み状況を判定する。期末試験では達成目標の達成度を確認する。合格には地球環境問題に対する世界と日本の対応の現状と歴史的背景を最低限理解することが必要である。</p> <p>欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。</p>			